

日時：7月11日（月）17時～18時30分

発言の属性： ○学生、●山形大学松坂先生、・教員、◎委員長、◆専務理事

1. 委員ディスカッション

- 人から得られる話、先輩の話是直接聞くのは大事だが、ネット就活になり、学生はネットの話が良かった、になりがち。周りの人がどんな活動をしているのか、企業のインターンはどうなのか、が見えにくいので、それがわかれば選択の幅が広がるのでは。
- 学生同士の情報がしっかり得られるコミュニティが必要。例えば、大学生協の学生委員が、困っている学生に教えたり相談できたりする関わりが持てる場があるとよい。
- インターネットでの情報収集に疲れた。また就活は企業と戦っている、挑んでいる感があって苦しかった。落とされて孤立感もある。社会から応援されている、迎えられていると感じられると良いのだが。
- 自分がダメかもしれないと思った時は、友達存在が大きかった。一人だとああダメだと考え込んでしまうが、友達といれば、大丈夫だよ、気にしなくてもいいよと言ってくれるし、お互いそうなる。
- ガクチカは、他人より凄い体験があることが大事なのではなく、自分の人柄や成長を、小さなことでも良いので、きちんと話せることが大事。他人と比較するのではなく、取り組み前と後の自分自身の変化に目を向けることが重要
- サークルに入れていない3年生が、ガクチカ探しにあせって、内容は怪しくないが、マルチ商法的手法のインターン、経験して夢に向かって一緒に頑張ろうとか、人を紹介する事で広げている、また変な師匠についている学生もいる。僕には怪しい話はない、お金もとらないが、ライフプランと一緒に話そうとか生命保険なんていらんよ、とか言っていて、僕からどうお金を取ろうとしているか分からない、どういう詐欺かも分からないが、手法は明らかにマルチ商法的なので、僕はすぐ離れた。生協として、あせっている学生が変なところにつかまらないように案内して欲しい。
- 理系の学生なので、今回フローチャートで、3、4年生、大学院1、2年生でこんなことをしている、の情報を見て、自分がいつから就活を始めれば良いのか分からなかった、周りの学生の情報が見れて、また全体の統計としていつ頃から始めているか、知れて良かった。
- 文系と理系では進路に対する支援が違う。特に理系には、院進学などの情報も必要になる。また専攻ごとでも違うので、学生をよく知っている大学生協が、大学と一緒に、理系学生に対する支援ができると良い。
- 民間をずっと目指していたが、公務員に途中から興味。「安定」だけでなく、自分のやりたいことと照らし合わせて、将来の選択肢が広がってきて、公務員と民間と並行してできないかと就活をしている。試験は結果待ち。民間オンリーの子はぼちぼち終わり出す時期で、自分は就活を続けている。悔いのない就活にしたいので、時期に関係なく頑張りたい。
- 早期化が進んでいる。3年生の5月からサマーインターンシップ参加。それで周りでは、早期選考、優遇で決まっている学生が結構いた。自分をはじめ1年後に内定。
- 友達と会えない話せない中で就活、選考が進んでいる今友達と会うと、就活の話をして大丈夫なのかなとタブー視、同じ会社を受けていたらどうしようと。あまり友達と上手く話したり相談せずに就活が終わってしまった印象。SNSに茶髪やネールを上げて、さりげなく終わったアピール。距離感をはかり、様子を伺いながら、今の就活生にはある。
- キャリアアドバイザーのいる新卒エージェントを使っていた。
- 教員養成系大学なので、就活生が多くなく、情報も少ない。先輩からもコロナで聞くこともできず、情報も得られず。大学生協の就活サービスがあれば学生は使うのでは。
- 教員養成系大学に在籍する学生のなかには、民間企業への就職活動を行っている場合、周りに言いづらく、情報も取りづらい。
 - ・就活は受験をもう1回やっている感じで、売り手市場なのに採用側に翻弄されている。もっと時間をかけて、1年生から考えることがあるのでは、地元企業も1年生からがあるのでは。
- 地域の企業に目を向けるのは学部1、2年生の時期がよいと思う。学部1年生から地域の企業研究を取り組むと、地域の企業理解が深まり、キャリア意識も高まる。また、学部3年生からインターンシップに参加するよりも、学部1、2年生からが良いと思う。
- 採用側の企業は、コロナ禍を踏まえて、ガクチカについては、ゼミや研究室の活動なども評価してくれている。ただし「勉強するのは当たり前でそれ以外はないの？」という企業もあるので、他にないのかと言われた場合に、無理に

語ろうとせず、これまで取り組んだ内容のなかで、自分らしさを伝えることが大事。

- 新渡戸稲造の「就職難に悩む人へ」というエッセイの中で、「面接ではよい印象をあたえようと無理をせず、ありのままの自分を現せ」と言っています。これは今も昔から変わらず、学生がありのままをどう自分自身について伝えるかが重要。
- ただ、頭ではわかるが、なかなかできないのも就職活動の難しさなでもある。学生には、大学生協や大学の就職サポートを活用してほしい。

2. 全体ディスカッション

- ◎大学生協でなければならないこと、しなければならないことなど、具体的なアイデアはありませんか。
- ◆3年生の息子も、コロナ禍の2年間は同級生となかなかつなげられず、3年生で対面授業が増えてもいきなり友達が増えるというわけでもない。そもそも就活で誰とどんな話をするかが不安。大学生協は人と人をつなげるのが得意なので、就活をやっている人を集めて交流会をやる、企業説明会で気軽にそういう場をつくるなど、会員や事業連合で具体化ができればと思います。
- ◎つなぐことが大事ですね。誰と誰をつなぐか。横を繋ぐのは（お互いに就職戦線では競争相手なので）難しい面もある（cf. 小説「何者」朝井リョウ）ので、縦を繋ぐことがより重要かもしれない。学生委員経験者で就職して外に出ちゃった人や、経験者として今就活渦中にいる人を繋ぐのは良いことでは。
- ◎つなぐことについて松坂先生にお聞きしたい。地方で中小企業と繋ぐ場合、自治体の存在が大きいというお話だが、地元企業の情報を持っているのは信金だと思う。協同組合金融機関の信金・信組などと大学生協、そして自治体および大学が連携して、中小企業インターシップなど進めることは可能でしょうか。
- 産学金の連携も重要。例えば、地域の金融などが積極的に連携している事例もある。そこに大学生協も入って、広く地域で人と人をつなぐ。そのために大学生協が音頭をとってもいいと思う。